

### 第83番 一宮寺

●香川県高松市一宮町607  
☎087-885-2301  
●宿坊/なし



### 第84番 屋島寺

●香川県高松市屋島東町1808  
☎087-841-9418  
●宿坊/なし



#### 沿線の見どころ



#### 特別名勝 栗林公園

紫雲山を背景に、その東麓に広がる回遊式大名庭園で、国指定の特別名勝。借景も含めると東京ドーム約16個分もの広さを誇り、6つの池と13の築山を中心に構成されており、歩を進めるごとに景色が変わりゆく「一步一景の美」が楽しめる名園。国内はもとより、海外からも高い評価を得ている。

所 香川県高松市栗林町1-20-16  
☎ 087-833-7411  
🕒 7:00～17:00(季節に応じて毎月変更)  
休 無休  
料 大人410円



#### 沿線の見どころ



#### 玉藻公園

水戸光圀の兄、松平頼重を藩主に迎えてから11代に渡り松平藩の居城だった高松城跡を中心とした史跡公園。日本三大水城の一つで、堀には海水が引き込まれている。月見櫓など城の7棟が国の重要文化財指定。また披雲閣は藩主が生活する場所として建てられ、現在の姿は大正時代に12代当主頼寿伯爵が再建したもので、これも国の重要文化財。

所 香川県高松市玉藻町2-1  
☎ 087-851-1521  
🕒 西門日の出～日没、東門8:30～17:00  
休 12/29～12/31  
料 大人200円



#### 境内の見どころ



#### 薬師如来祠

クスノキの根元にある薬師如来の小さな祠。この台座の下からは「地獄の釜」の音が聞こえ、心がけの悪い人が頭を突っ込むと石の扉が開き、抜けなくなるという伝説がある。江戸時代、近くに住む意地の悪いおタネばあさんは頭が抜けなくなり、これまでの行いを反省するとうやく扉が開いたという。



住宅街に溶け込み、ごちんまりとした境内は閑静そのもの

### 第83番

# 神毫山 一宮寺

しんごうざん たいほういん いちのみやじ

## 田村神社と隣り合う閑静な霊場

### 歴史・全体像

寺の歴史は古く、飛鳥時代の大宝年間に義淵僧正が創建したといわれている。当初は「大宝院」と称した法相宗の寺であった。諸国に一宮が建立された際、行基が堂宇を修築、讃岐国一宮・田村神社の別当寺となり、寺号を一宮寺と改めた。後に弘法大師が滞り、聖観音像を刻んで本尊として安置。この時、真言宗に改宗した。戦国時代の兵火による焼失を経て、僧の宥勢が再興。延宝7年(1679)には、高松藩主松平頼重が田村神社と神仏分離させ、明治の神仏分離令よりも200年前に独立寺院となった。境内は田村神社と隣接しており、仁王門は路地を挟んで田村神社と隣り合っている。

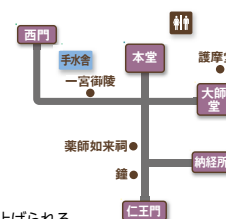
### 境内

寺は高松市郊外の閑静な住宅街の真ん中にある。仁王門の真向かいには檀信徒によって再建された本堂があり、右側に大師堂、その隣に平成18年(2006)に落慶した木造宝形造りの美しい護摩堂が建つ。その前にある石灯籠は、京の名工・西村金造の作。本尊の聖観音像は弘法大師の手によるものといわれている。大師堂の天井には先祖供養の灯籠がずらりと吊るされており、思わず目を奪われる。

本堂手前の参道脇にそびえる大きな楠の下にはベンチも置かれ、地元の人たちが参拝がてら集う場としても親しまれている。



本堂の木戸には千羽鶴。2年に1度、焚き上げられる



御詠歌/さぬき一宮の御前に仰ぎきて  
神の心をたれかしらいう  
本尊/聖観世音菩薩  
真言/おん ありりきゃ そわか  
宗派/真言宗御室派  
開基/義淵僧正



## 日本遺産「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業/発行:四国遍路日本遺産協議会/制作:(株)エス・ピー・シー

こころをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に



